

# 平成28年度第2回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 平成28年4月26日（火） 13：15～16：50
- 2 場 所 3号館8階教育委員会室
- 3 出席者 <教育委員会>  
雪村教育長 森本委員 梶木委員 伊東委員 大塚委員 福田委員  
<事務局>  
林教育次長 岡田スポーツ担当局長 稜野総務部長  
川田指導部長 日下社会教育部長 後藤教育施策推進担当部長
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議内容

（雪村教育長）

ただいまより、教育委員会会議を始めます。

本日は、議案3件、協議事項2件及び報告事項7件です。

このうち教第5号議案及び教第7号議案については、教育委員会会議規則第10条第1項第4号により、社会教育委員、公民館運営審議会委員及び法律または条例に基づき設置する附属機関の委員の委嘱及び解嘱並びに任免に関する事。協議事項1及び協議事項2については、教育委員会会議規則第10条第1項第6号により、会議を公開することにより教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものとして、非公開としたいと思いますが御賛同いただけますか。

（6名の賛成により、非公開案件を決定）

（雪村教育長）

教第6号議案「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」への参加を定める件について、スポーツ体育課より説明をお願いします。

**教第6号議案** 「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」への参加を定める件

（浅野スポーツ体育課首席指導主事）

教第6号議案、「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」への参加を定める件について説明します。国における調査は、昨年度同様悉皆調査です。調査対象は全国の

小学校、特別支援学校及び義務教育学校前期課程の5年生に該当する児童と、中学校、特別支援学校及び義務教育学校後期課程の2年生に該当する生徒とで行われます。

調査項目は、昨年同様です。

市としては、スポーツ庁の調査に協力し悉皆調査に参加したいと思います。

12月にスポーツ庁から結果の報告があり、その後、神戸市の種目ごとの平均値を速報値として公表します。昨年度は12月に公表しました。

学校ごとの平均値の数値は公表しません。数値を自校で利用することはできますけれども、事前にスポーツ体育課と相談することとしています。

(雪村教育長)

この件について、いかがですか。

(大塚委員)

各校の自校の結果について、それぞれ公表可というのは以前からそうですか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

そうです。

(大塚委員)

ということは、学力調査と少しニュアンスが違いますね。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

実際には学校ごとに公表していることはないですけれども、学校ごとにその調査結果を利用・活用することは、どの学校でもされています。

(大塚委員)

結果としてはオーケーだと思いますけれども、形式論ですが、学力調査と比較をされて、「扱いが違う、学力調査も同じようにしないのか」と言われるのじゃないかと思います。

学力調査については、私は従前の神戸市の対応しかないと考えています。この体力調査についても学力調査と合わせなくていいのかなという問題提起です。

結果的には、特に公表していないということで、全然問題ないと思いますけれども。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

そういった御意見があれば、しっかり議論していかないといけないと思います。

(大塚委員)

実際に公表しているなら現場との調整が要ると思いますけれども、公表していないなら、この場だけの話なので文言の整理だけですね。むしろ結果を公表しても何の問題もないと私は思っていますが。

(雪村教育長)

学力調査との整合性を検討しましょうか。要するに「各学校においては」以降の2行がなくても別にいいわけですね。

(後藤教育施策推進担当部長)

学力調査の場合、「公表することは可能である。」ということではなく、むしろ「公表しなさい。」と言っています。ただし、「公表の仕方として数値による公表はだめです。文章表現で公表してください。」としています。確かに御指摘のとおり二重の意味で食い違っているということになります。

(大塚委員)

弊害がなければできるだけ公表したほうがいいと私も思います。ただ、学力調査は明らかに弊害が考えられます。それならば守らないといけないとすると、運動能力についてはどうかと考えたときに、これも学力調査と同じで「公表する、しかし数値じゃなくて文章で」としてはまずいんですか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

この結果を受けて取り組むわけですから、学校によっては子供の状況の中の体力の項目として、「体力アップ事業に取り組んでいます」と、たより等でお知らせされています。ですので、平均からどれだけ落ちているといった数字ではなく、学力テストと同じように文言でされているところはかなりあると思います。

(雪村教育長)

足並みをそろえるなら、学力のほうは全学校、ホームページ等何らかの形で、公表していますよね。体力についてもそういった形をとるように、各学校に要請するという形になります。それはスポーツ体育課としてはよろしいですか。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

学力のほうは一律公表しているということですか。

(雪村教育長)

そういうことです。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

文言で公表しているということですか。

(後藤教育施策推進担当部長)

公表の方法は、学校だより、学年だより等でとなっていますので、ホームページで必ず上げるというところまではいっていません。

(大塚委員)

公表のレベル、程度も学校によって違いますよね。

(後藤教育施策推進担当部長)

こういうのを参考にしてという凡例はつけていますので、ばらつきは少ないです。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

スポーツ庁から来ているのは、「学校や地域の実情に応じて個別の学校や地域の結果を公表しないなど、必要な配慮を行うこと」ということで、公表については「教育委員会と協議して」となっています。ただ、「数値のみの公表は行わないこと」と来ています。

(後藤教育施策推進担当部長)

それは学力も同じです。ただ、これは税金を使って実施していますので、公表はすべきだろうと考えています。

(森本委員)

もともとの出どころが違いますけれども、学力調査も体力調査も学校は同じことをしています。学校が受けているのは子供も知っていて、保護者も興味を持っているので、公表の仕方は同じにしたらいいと思います。

同じようにホームページに上げるところは上げてもいいだろうし、学級だよりや学校だよりでもいいです。授業研究もやっていますけれども、学力調査の結果には出しています。「今何年生の社会はこんな状況です、それに力を入れて」とみんな言っています。だから、同じようにされたらどうですか。既に学力でやっていますので、それに準じて体力も課題となっていることを文章表記やグラフであらわして出しましょうということなら、作業として難しくはないですね。そんな方向でされたらどうですか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

それに向けての取組は既に行っているもので、それとタイアップした形で考えたいと思い

ます。

(雪村教育長)

そうしましたら、この2行の表現についてもう一度見直して、どういった形で各学校に公表するかということ具体的に検討してくれますか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

はい、わかりました。

(林教育次長)

今気がつきましたけれども、2番の(2)の調査結果についての1行目の説明です。「スポーツ庁の公表後に、神戸市全体の結果を小中学校、義務教育学校の種目毎の平均値を」となりますと、義務教育学校1校の平均値が出ると捉えるんですか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

違います。「(義務教育学校を含む)」とします。

(林教育次長)

そうしないと誤解を生じますね。

(雪村教育長)

そのほか、よろしいですか。

では、この2行の変更について、何らかの形で教育委員さんにもう一度御了解を得るようになしてください。

(文言の修正の指示があり、採決保留)

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

ありがとうございました。

(雪村教育長)

続いて、報告事項2、平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を受けた今後の取り組みについて説明をお願いします。

**報告事項2** 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を受けた今後の取組について

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

体力調査の27年度の結果を受けた今後の取り組みについて報告いたします。

体力合計点を見ると、神戸市の子供たちは全国平均に達していないことがあらわれています。12月に速報としてお知らせした内容のとおりです。

しかし、運動や体育が好きという子供たちは全国平均より割合として上回っています。また、26年度の悉皆調査の質問の中に、幼児期にどうだったかという質問が5年生に対してのみあり、その中で、幼児期に運動が好きだった、運動遊びが好きだったという子供たちに関して体力の得点が大変高いという結果も出ています。

これらの結果を受けて、今年度新規事業として、「こうべっ子！体力アップ推進事業」を立ち上げることにしました。これについては、スポーツ庁の子供の体力向上課題対策プロジェクトの委託事業として、現在申請中です。その中の一つとして、先ほど申し上げました幼少期の運動遊びの充実に視点を当てて、推進委員の委員の中に私立の幼稚園の先生であるとか、あるいは外部の体育指導員の方であるとか、有識者の方であるとか、いろいろな立場の方をお迎えして、多様な観点から子供たちの体力を研究、分析していきたいと考えています。

体育が好きな子が多い割に体力はアップしていないと言われていいますので、体力アップ事業の一つとして、昨年度10校だった指定を20校にして、メスを入れて、体力を意識した授業の改善、工夫などを指導したり、あるいは情報を発信したりしたいと考えています。

それから体力アップ通信というのを出していますけれど、公立のみの配布でしたが、ことしは幼稚園も含めて私立保育所にも全校配布しようと考えています。子供たちへの配布を希望する私立幼稚園も含めて、家庭への発信にも目を向けていきたいと考えています。

以上3点と既存の事業を組み合わせ、効果的に、そして組織的に体力アップを図っていききたいと考えています。

(梶木委員)

3ページの下グラフですけれども、ほかのグラフを見ると、大体的場合は楽しくないといった回答になると体力合計点が下がっているのですが、男の子に関しては最も楽しくないと答えている子の体力の合計点が高いですね。これは、体力はあるんだけど、体育の授業が楽しくないという分析でいいですか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

運動好きで体育嫌いの子が中学生には少しいます。

(梶木委員)

中学校の男子も若干上がっていますが、その傾向は小学校5年生のほうが高いですね。

明らかにそういう傾向が出ているように思いますけれども、この辺りはどういう課題だと思われませんか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

体育の授業が嫌いなのではないんだと思いますけれども、楽しいと感じるところには至っていないんだと思います。ただし中学生になると、体力を上げることに環境的には体育以外のところもあるのかなと思われませんか。それもあって体育以外で運動するところがなくて、体育を待ち遠しくて、待ち遠しくてしょうがないという状況ではないのかなと考えています。

これといったものが何なのかと特定するのは、少し難しいと思います。

(梶木委員)

何か潜んでそうなデータだと思います。

(林教育次長)

エビデンスはないですけども、推測はできると思います。学年が上がるにつれ、例えば規律であるとか体操における姿勢であるとか、厳しい指導に入ってきます。運動が好きでも、そういうことにとらわれたくない、早くドッジボールしたい、早くバレーボールしたいという意味で、授業そのものがおもしろくないと感じる子は多くなってきます。ですから、本当はそういうところは大事なんですけども、ルールやマナーや姿勢というところに力を入れると、授業はおもしろくないけど運動は好きだということになります。ゲームを早くしたいということですね。特に中学校の場合そうでないかなと、私は見ました。

(梶木委員)

幼少期の体を動かす遊びというのは具体的にはどんな遊びですか。子供たちにどんなふうに質問したのかなと思いました。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

5年生の子供を対象にして、「幼児期のときにいろいろな運動遊びをしましたか」という漠然とした問いです。今年度、もう少し幼稚園に調査を充てて取り組んでいこうということです。

(梶木委員)

普通にそこにいたら遊びますよね。なので少し答えにくい質問だろうなと思いました。砂遊びはどうかとか、お部屋の中で体を使って遊ぶこともあるし、そういう中でどういう遊びをさせていたのかなというところがあります。私は幼少期には外でしっかりと遊

ぶのが大事だと思います。

体力アップの事業をされるというところでいいなと思ったんですけど、私が別のところで調査したら、「子供が遊びを習うには誰から教えてもらいますか」という項目で、10年前は「先生」という回答が割とあったんですけど、学校の先生の割合がすごく下がったんです。学校の先生自体が若返っているのも原因なのかもしれないんですけど、先生自体がもう少し遊ぶような取組もやって、先生みずから遊ぶ姿を見せたら、子供も一緒に楽しく遊べるのかなと思いました。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

今年度も運動遊びの幼稚園の研修会に小学校や保育園の先生にも来ていただいて、そこで情報共有や意見交換ができたかと考えています。

(梶木委員)

きっと体づくりですよ。

(伊東委員)

ぜひこのデータと組み体操はリンクしていただきたいですね。活用しつつ、両方とも効果があるようにしていただきたいです。要は全国の数値よりも劣っている項目は、組み体操をやるやらないを検討する学校で参考になると思います。

体力アップ推進事業で学識経験者、幼稚園、小学校教員等々となっているんですけど、スポーツの世界ではライセンス制がすごく言われています。例えばうちの大学生とかでもジュニアリーダーとか日本体育協会の資格がとれます。先生方の中に、そういうライセンスを持っておられる方がいるか調査していただいて、そういう先生の経験をぜひ生かしていただければいいと思います。ライセンスがいいというわけではないですけども、要はライセンスが宝の持ち腐れになっていないか。教員免許以外にスポーツの世界では資格をすごく重視されてきています。中学校の先生とか高等学校の先生はたくさん持っておられるような気がしますので、日本体育協会の公認指導員の資格をどれぐらい持っているかというのを、一度お時間があったら調査していただければ、よりよい体力アップ事業につながるのかなと感じました。

(福田委員)

以前の会議で、組み体操をやめるのかという議論の中で、けがをする件数のデータを見ると、バスケットボールなどは多かったですよね。この事業の狙いは体力をきちっと身につけようということだと思いますし、けがとの関連というのは、物すごく気になっていたわけです。

このデータでは浮き彫りになっているところも出ています。スポーツや各種目に対し



て、子供は楽しく思っているのかどうかとアンケートとっていますよね。楽しいけれども、一生懸命やりたいんだけど、けがをしてしまうのか、授業で嫌々やらされているからけががふえるのか、そういう見方もしてもらいたいです。

おそらく楽しいと思ってやっているとは思いますが、こういったデータと以前の会議で示されたけがのデータをもう一度よく比べて、何か手の打ちようがあるかどうかとか、改善することがあるかどうか、そういう視点でデータを見られたらどうかと思います。

(雪村教育長)

調査結果の項目はどれが国指定ですか。神戸市独自項目はありますか。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

全部が国指定項目です。

(雪村教育長)

幼児期の遊びの件は26年度しかないというのは、27年度にはやっていないんですね。28年度は、再度国がしようとしているのですか。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

児童質問紙の内容はまだどういったものかはこちらに届いていないので、内容はまだわかりません。

(雪村教育長)

市独自の項目が盛り込んでいるわけではないんですね。項目を修正するのは少し難しいですね。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

するとすれば神戸市が独自に管理等を行うことになります。

(雪村教育長)

そのほか、特によろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

分析等については、いただいた意見を踏まえてまた報告してください。

(浅野スポーツ体育課首席指導主事)

はい。ありがとうございました。

(雪村教育長)

続けて、報告事項3の博物館の入館者数等の報告について、お願いします。

### **報告事項3** 博物館の入館者数等の報告について

(小野田博物館学芸課長)

報告事項3平成27年度の入館者実績について報告します。

まず博物館からですが、昨年度はチューリヒ美術館展に始まり、須磨の歴史と文化展まで、多彩な4本の特別展を開催しました。

中でも「大英博物館展」の最終日に当たる1月11日には、博物館が昭和57年11月3日に開館して以降、足かけ34年目になりますが、1,000万人の来館者をお迎えしました。

また、「須磨の歴史と文化展」と「四季山水図屏風重要文化財指定記念太山寺展」を同時開催しています。太山寺さんがお持ちで大阪市立美術館に寄託しているびょうぶなどを列品することができたことは、意義深いことであったと考えています。

昨年度の入館者総数は36万839人と、平成26年度に比べると10万人程度の減少がありましたが、1月から3月にかけての「チューリヒ美術館展」と「須磨の歴史と文化展」の来館者数の差によるものと考えています。

次に、小磯記念美術館ですが、特別展として「国立美術館巡回展 洋画の大樹が根付くまで」と「野田弘志展」の2本を開催し、それぞれ1万人内外の入館者を数えました。

平成27年度の入館者総数は3万2,589人、平成26年度では2万6,092人で、約6,000人の増となっています。これは平成26年度1月から3月まで、小磯記念美術館が空調施設の改修工事に伴って休館していたためでもあります。

最後に、神戸ゆかりの美術館ですが、美術館の認知度を上げるために、2つの特別展を実施しています。一つが「画業40周年 わたせせいぞうの世界展」で、もう一つが「招き猫亭コレクション 猫まみれ展」です。会期の長短はありますが、どちらも1万人を超える方に御来館いただきました。

なお、1月19日の報告では、「わたせせいぞうの世界展」について、速報値により1万1,994人と申し上げましたが、正しくは1万2,001人です。訂正します。

入館者総数としては、26年度に比べて、約1万6,000人の倍増となっています。

なお、「わたせせいぞうの世界展」では1月11日(月曜・祝日)、最終日に神戸ゆかりの美術館では最高の1,119人の入館者がありました。

なお、3部リーフレットをお配りしています。本年度の展覧会の案内です。3館ともにそれぞれの持つ館の強みを生かして、展覧会を実施していきますので、よろしくお願

います。

(雪村教育長)

3館の入館者実績について、いかがですか。

(森本委員)

文化振興財団が作っている文化ホールの駅置きの情報誌が四つ折りから三つ折りに変わりましたよね。あれは非常によくまとまっています。1つを見れば、映画から何から全部1枚に載っています。せっかく3館並んでいるのに、いただいたしおりが3つばらばらですね。興味を持って人たちは1枚でものを見たいんです。例えば1枚にして3館すべてに配布されたらいいと思います。新開地の映画館も3つあるけれど、今は1枚に統一になっています。だから、せっかくなので博物館も小磯記念美術館も、それから所管が違ってくると思いますけども、神戸ファッション美術館も1つに全部まとめておられたら、見る側がいいなと思います。難しい話ですけども、何かそういう工夫をされたらどうかと思います。

(小野田博物館学芸課長)

ことはもう刷っていますので、次年度にはそれに向けて調整を図りたいと思います。

(森本委員)

文化振興財団の情報誌は非常にわかりやすいし、何か少しおまけネタが入っているでしょう。工夫されて何か応募しようかなというふうな感じになっていますね。

(梶木委員)

神戸ゆかりの美術館も頑張っているんですね。

教育委員会に移ってきたときにちょっと心配していましたが、すごく企画展等で頑張っておられて、楽しい美術館に育ってきているなと思います。

(小野田博物館学芸課長)

ありがとうございます。

(大塚委員)

「須磨の歴史と文化展」が少ないですね。例えば「大英博物館展」だったら広告は新聞がじゃんじゃんやってくれますよね。「須磨の歴史と文化展」はそれをやってくれない。その差はすごく大きいと思うんですけども、何とかこの地味な展示を広報するのをお願いしたいです。新聞社がやってくれない部分で、しかも自主企画であるにもかかわらず

ごい展示があるということをもっと神戸市民に知ってほしい。「須磨の」と言っても、須磨の区民は知らないですよ。だから、予算の関係はあるとは思いますが、もっとPRしなきゃいけないんじゃないかな。個人的にはあちこちで吹聴はしていますけれども。

(小野田博物館学芸課長)  
ありがとうございます。

(雪村教育長)  
ほか、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)  
続いて、報告事項4の博物館リニューアル基本計画の策定と公表についてお願いします。

#### **報告事項4** 博物館リニューアル基本計画の策定と公表について

(小野田博物館学芸課長)

博物館では、昨年度学識経験者などを交えたリニューアル検討委員会を6回実施しました。その中で議論を重ねて、神戸市立博物館リニューアル基本計画を策定しました。

計画書ですが、第1章の「リニューアルの背景」に始まり、第6章「建築設備改修の検討」まで、66ページに及ぶものとなっています。

第1章「リニューアルの背景」、1から13ページが該当部分です。博物館の理念と目的・基本的性格、使命に基づき、博物館の長所と入館者のニーズを探っています。そこでは、おのずから現状と課題が浮き彫りになっています。

課題として、(1)常設展示の陳腐化・情報化のおくれ、(2)コレクションの利活用が不十分、(3)情報や活動成果の公開の必要性、(4)周辺との親和性、(5)教育普及機能・活動のさらなる充実、(6)アメニティ設備等の不備、(7)文化財保存環境への配慮、(8)建物・設備の老朽化が指摘されています。

これらの課題解決に際しての方向性が14ページから27ページまでの第2章「リニューアルの基本方針」が該当します。

まず基本方針としては、14ページにあるように、1. まちに開かれた博物館、2. わかりやすく伝えるための再構築、3. 博物館機能のさらなる充実。これにより、15ページにある博物館活動の基盤として、交流・発信機能を充実・強化し、神戸の文化振興を担う拠点博物館として生まれ変わるのがリニューアルの目指すところです。

具体的には、博物館の展示のゾーニングを、フロアごとの性格を明らかにして再編することにします。18ページが概念図です。今でも活用していますが3階と2階の特別展フロアでは現状の機能を維持しながら、巡回展、特別展、企画展に対応していきたいと考えています。

大きく様変わりするのが、現在常設展示室として活用しているエリアです。2階は所蔵コレクションのフロアとして、貴重なコレクションである銅鐸を初め、フランシスコ・ザビエル、古地図、ガラス、美術、歴史の6テーマで、年間を通して公開できる環境を創出したいと考えています。1階は神戸の歴史と文化のフロアとして、神戸の歴史と文化を概観し、神戸の大きな魅力の一つである近代を体感できる常設展示を構築するとともに、交流する空間としてのホール、情報センター、体験学習室を設けます。さらにはミュージアムショップを発展・拡張させ、カフェと近現代資料展示と図書閲覧機能が一体となったライブラリーカフェを設置し、楽しみや憩いの場を提供します。

なお、1階については、市民の方々や観光客に気軽に利用できるよう、無料化を検討します。

1階、2階における展示構成について、より具体的な方針を掲げたのが、28ページからの第3章「展示充実化計画」です。1階の神戸の歴史と文化のフロアでは、博物館の立地を生かし、港と文化交流を際立たせたテーマ展示に一新し、幕末から近代の展示を重点に、華やかでハイカラな往時を体感でき、わかりやすい動線で誰もが楽しめる展示室を目指します。

展示構成については、21ページから34ページです。

2階では、珠玉のコレクション群に出会う博物館の新たな見どころとして、国宝・重要文化財を含む神戸の歴史の理解を深める資料や、東西交流を主題としました資料群で、国際的視野を深めるレイアウトとします。それぞれの展示構成については、39ページから41ページをごらんください。

続いて、サービス機能として、アメニティ設備を充実させるとともに、周辺地域との親和性を高め、より親しまれる博物館を目指すための具体的な取り組みを記載しましたのが45から58ページ、第4章「博物館のサービス充実化計画」です。博物館のホール、さらには南側の部分が大きく該当するエリアですが、ホールは多様なシーンや目的に対応する交流空間に一新し、南のエリアでは学習支援交流員——ボランティアではありますが、その活動を活性化させるボランティア室、団体学習や子供たちの学習ゾーンとして機能させる体験学習室、博物館の所蔵品と市内文化財を検索できる情報センター、オリジナル商品や関連書籍を充実させたミュージアムショップ、近現代のコレクションと図書を有効活用したライブラリーカフェ、あわせて講堂の普及強化を図りたいと考えています。

59ページ、60ページ、第5章「博物館活動充実化計画」では、従来の博物館の本来業務である保存収集・調査研究・教育普及の3本柱の充実。61ページ、62ページでは、第6章「建築設備改修の検討」を設けており、文化庁の公開承認施設としてふさわしい設備の改

修について、防災計画であったり、電気設備の改修であったり、給排水、衛生設備の改修、空調設備の改修など、ハード面での整備を進めていく方向性を示したものです。リニューアルを実施、さらに並行して進めていく課題ともなっています。

このリニューアル基本計画については、5月の博物館のホームページで公表していくこととあわせて、パブリックコメントの公表を予定しています。

今後のスケジュールですが、この基本計画に基づき、年内に基本設計を実施し、同時並行になりますが、翌年も含めて実施設計、平成30年2月ごろから工事に着工し、平成31年の秋にはリニューアルオープンをしたいと考えています。

(雪村教育長)

博物館のリニューアル計画について、御質問や御意見はありませんか。

(大塚委員)

収蔵庫は足りていますか。

(小野田博物館学芸課長)

率直に申し上げますと、当館だけではなしに、小磯記念美術館も神戸ゆかりの美術館ももうパンク状態です。

(大塚委員)

ですよね。神戸市だけじゃないとは思いますが、そこはこのリニューアルには入っていないんですね。

(小野田博物館学芸課長)

そうですね、今回のリニューアルの一番大きな骨子は、開館以来34年間たっており、一部手直しをしましたが、ほとんど手のついてないところ、学説等が変わってきますので、その部分を博物館の立地に見合ったような親和性を持って、なおかつ神戸の博物館の立地する場所から、居留地の中ということに重点を置いた展示にして、子供たちの学習に活用していただければというところをメインに置いています。

「ザビエルはいつも見れないのか」といった御意見がありましたので、それを少しでも解消していくために、コレクションの中でも南蛮美術は必ず展示しているコーナーを設けて、それもお客様に見えるように博物館を変えていこうということです。

(大塚委員)

それはそれで結構だと思いますけれども、地味な部分、図書館で言うと要するに収納ですよね、それから博物館で言うと収蔵物、これは絶対永遠の課題で、どんどんやっていか

なきゃいけない。これで何とかなるのか、ならないんだったらどうするのかというのを、一緒には言いませんけれども検討いただかないと、どこかで宝の持ち腐れが始まる、あるいは腐るだけじゃなくて、新規収納ができなくなる。新規収納もできなくなったら、ある意味でこれは博物館の機能の一部が欠落するわけですよ。もちろんお金がかかるんですけども、それも少し考えていただかないといけないんじゃないかなと思います。これは地味ですけども、本当にやっていかないとたないですよ。

(寺田博物館副館長兼事務局長)

最近では収蔵といいますか、「この作品を預かってくれへんか」とか、「どないかしてくれへんか」という相談が少しあり、私どもも「収蔵庫がないから」とはお断りしていませんので、大塚委員の言われた問題は課題として考えています。また並行して検討していきます。

(大塚委員)

何かの拍子にまとまったコレクションが出てきて、「これぜひ神戸市で」と言われたときに、断ったらよそへ行くんですよ。それは少し神戸市としてはしのびない。だから、図書館で言えば常に最下段はあけておくというのと一緒に、博物館も常にそこそのコレクションぐらひは受け入れ可能というキャパを持っていないと、本当は博物館と言えないんじゃないかという気がします。

(森本委員)

28年、29年に基本設計で、リニューアル開館が31年になると言われましたが、31年の秋といえば、ラグビーのワールドカップのときですか。

(寺田博物館副館長兼事務局長)

ラグビーは大体9月か10月とお聞きしてるんですけども、ちょうどその試合があるときぐらいが工事が終わってるか終わってないかというタイミングかと思います。

(森本委員)

ラグビーが2019年とか、オリンピックが2020年というのはわかるけれども、何かそれらと一緒に合わされたらいいと思います。

博物館のリニューアルも特別支援学校の開校もあると思います。だから縦の関係でなく横で捉えたら一般の方にわかりやすいと思います。「ラグビーの年にリニューアルしますよ」とか、それから「特別支援学校がそこででき上がりますよ」とか、それから三宮全体の再開発のこととか、何かそんなことと合わせて「博物館が平成31年（2019年）にリニューアルします」と絶えず言われていなかったら、みんな覚ええないですね。

子供たちに説明するのもわかりやすいですよ。中身についてはよく考えられていると思いますけれども、そんなふうに説明や発表を合わされたら非常にわかりやすくなるんじゃないでしょうか。

(梶木委員)

空間のイメージは割と重厚な感じでリニューアルしようとしている計画なのかなと思います。

(小野田博物館学芸課長)

1階のフロアが中心になりますが、1階で神戸の歴史を概観できます。いかんせん古い資料というのは古いほどなかなかモノがないわけで、新しいほうと言ってももう140年になります。新しいほうでは神戸とすると居留地のハイカラさというか、蓄積されたモノについてのイメージをもう少し打ち出したほうがいいのではないかとということで、一部おかたいというようなお話もありましたが、53ページのところには、喫茶と図書を融合した空間を設けます。そこにはできることならば近現代の資料も活用しながら、親和性がとれるようにと、博物館の資料が身近に見れるような形での展示も考えています。53ページの写真がそうですが、今まではどうしても博物館だとさわれないということもあったんですが、そういったところを若干なくして、近現代資料も活用して、身近に触れられるようなところもコンセプトとしては入れています。

(梶木委員)

旧居留地の頃の内装のイメージとか、そういうのは売りにしやすいのかなと思ったので、「トムセン邸の部材を使用した空間」とか、こういうのすごくいいと思います。ここにあるからこそこういう空間づくりというので、それを控え目ではなく売りにしていって、そういうのが好きな人も多いですからね。町なかに博物館があって、そこが拠点になってまちづくりするというので、いろんな都市がトライされています。チャンスなので、「文化の拠点」として、ぜひ発信していただけたらと思います。

(大塚委員)

博物館の建物自体も歴史的な建造物ですけど、あの周りに似たようなのが幾らでもありますよね。すぐ裏側に15番館があって、その目の前に昔の下水道があって、それから大正から昭和初期のビルは大分つぶれましたけれども、それでもあのあたりにかなり残っています。それらを一体として、まち全体が博物館のようなイメージができればいいと思います。博物館に来て興味を持ったら、ここも行ってみようかと言えるようなゾーニングといますか、そんなソフトだと思えますけれども、整備していただければ。あのあたりの古いビルを回るだけでも結構いいんですよ。



(寺田博物館副館長兼事務局長)

そのあたりは、51ページにある情報センターで情報提供できるのではないかなと思います。

(大塚委員)

情報もそうですけれども、私をもっと言いたいのは宣伝です。

そこに来て情報を検索したい人はそれでいいと思うんです。そこまでのインセンティブがなかった人でも、「ええ、それなら（行ってみようか）」というふうな広報です。そうすると、神戸市自体が一つのまちとしての博物館だというイメージで、居留地は今それに成功していますよね。だけどあれは民間団体としての居留地協議会がやってらっしゃる。もっと博物館がリーダーシップとれる部分が私はあると思います。余り財政当局に言わなくても安く上がると思いますので、ぜひ、こちらをお願いします。

(雪村教育長)

居留地協議会には博物館も入っているでしょう。

(寺田博物館副館長兼事務局長)

一メンバーとして入っています。

(雪村教育長)

今、居留地のマップみたいなのはありますか。

(寺田博物館副館長兼事務局長)

あります。

(雪村教育長)

「この建築物がここにあって」とかというものです。それは博物館にも置いていますか。

(小野田博物館学芸課長)

置いていますし、夏休みにボランティアさんが中心になって、来館者に居留地の案内もしていただくという取り組みはしていますが、いかんせん暑いときに来られた際は、博物館が涼しいものですから、出たくないという難点を抱えています。それは別に建物だけじゃなく、東遊園地に置いてある銅像等についても説明するような機会を設けています。

(大塚委員)

あるいはもっと言えば、すぐ南側の国道2号線、見たら単に2号線ですけど、あれも昔の渚ですよ。そんな話もどんどん広めていってもいいんじゃないかという気がします。

(雪村教育長)

ほか、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

ありがとうございます。

(小野田博物館学芸課長)

ありがとうございました。

(雪村教育長)

それでは、報告事項5の高等専門学校機関別認証評価の結果について、お願いします。

## **報告事項5** 高等専門学校機関別認証評価の結果について

(若林工業高等専門学校副校長)

報告事項5 高等専門学校機関別認証評価の結果について説明します。

本校は、法律で7年ごとに受審することが決まっている機関別認証評価を昨年度受審しました。その結果が3月に出ましたので報告します。

主なすぐれた点として6点、主な改善を要すべき点として1点挙げられています。同様に、昨年度受審した高専がもう1校あり、一昨年度は15校が受審しています。必ずしもすぐれた点の数を比べるような類いのものではありませんが、結果は他高専の状況と比較しても遜色ない結果というか、むしろより高い評価をいただいた結果と捉えています。

すぐれた点としては、専攻科2年生の他専攻の学生と一緒に取り組むエンジニアリングデザイン演習についてのこと。

2つ目が、学生が各科目の到達目標を自己評価し、それを集計する形で本校の学習、教育目標がどれくらい達成できているかというのを出すシステムのこと。

それから、就職及び進学の学生の進路のこと、就職率が高いというのは前から言っていたいたんですが、その内容に関しても評価いただきました。

4点目が、4年生、卒業前年度の進路ガイダンスだけではなく、低学年からの系統立ったキャリア教育のこと。

5点目が、過去に本校が外部評価を受けたときに指摘された事項について、改善されているという意味で、PDCAのサイクルがうまく機能しているということ。

最後6点目が、学生の授業アンケート結果を、教員のほうでコメントを書いて学生にフィードバックしている、その仕組みのこと。以上6点、評価いただきました。

逆に、主な改善を要する点としては、入学者受け入れ方針、アドミッション・ポリシーの部分で、求める学生像というものは明文化できていますが、もう一つの構成要素である入学者選抜の基本方針というところを明文化できてないという指摘を受けました。これについて、本校では文部科学省がアドミッション・ポリシーを策定する例を出されていますので、そのあたりを参考にしながら、9月の入試説明会までに明文化するよう、校内で作業を進めているところです。

以上、主なすぐれた点6点と、主な改善をする点1点を指摘を受けました。

それから、これとは別に、選択的評価事項Aという研究活動。それから、選択的評価事項Bという地域貢献活動についてもそれぞれ良好であるという評価をいただきました。

(雪村教育長)

評価報告について、いかがですか。

大学とはまた違うかもしれませんが、福田先生いかがですか。

(福田委員)

私が所属している機構は、高専を全部担当することになっています。だから私は余りコメントしないほうがいいかもしれないですが、結果はよかったと思います。

高専は51あるんですね。

(若林工業高等専門学校副校長)

国立は51で、公立、私立入れて57です。

(福田委員)

私も全国の報告書をちらっと見ましたけれども、いいんじゃないかと思います。ただ、認証されたからいいというのじゃなくて、次の7年間でどう改革するのかという前向きな姿勢を絶えずとることが基本的な目的だと認識しています。ですから、ステップ・バイ・ステップで着実に進んで、改革されているんだということを、教職員が共有されることが大事だと思います。その姿勢であれば、認証されるかされないかのレベルじゃないと思います。認証されて当たり前で、さらによりいい高専になるんですということは皆さんと一緒に考えられたらいいと思います。

(雪村教育長)

ありがとうございました。

(大塚委員)

高専が幼小中高に比べると、教育委員会の関与は薄く、接点が少ない。それをどうしたらいいかという話が前から議論に出ていますけれども、これから教育委員会会議で議論するとして、高専の現場からするとそのあたりについて感想、意見はありますか。はっきり言えばほっておいてくれたほうが自由にやりやすいという面はあると思います。だけど、委員会である程度サポートしてくれないかというのもあり得ると思うんです。かなりアンビバレントな部分があると思いますけれども、どうでしょうか。

(若林工業高等専門学校副校長)

相談したいこととかがあった際に、他高専の教務主任に状況を聞くとか、あるいは国立が大半なので、高専機構にお尋ねするとかということは今までもやっています。それに加えて、教育委員会の窓口相談させていただいたら、すごくありがたいと思います。

(大塚委員)

今だったらどこになるんですか、それとも窓口はないんですか。

(豊永総務課長)

窓口的には総務課でやっています、相談があった際に「例えば高校で言えばこの首席がこんなことを考えているので、そこと相談してください」みたいなことをやっています。ただ、頻度は小中高に比べたら少ないと思います。

(大塚委員)

そうですね。

(福田委員)

高専機構長と少し話をした中で、彼らが思っている高専というのは、皆ローカルに配置されていて特色があります。ですから、それぞれのローカルなエリアの特徴をいかに出すかということをも物すごく気にされていました。ですから、神戸高専は国立ではないけれども、かなり高い評価をしてきていたと思いますし、先ほど来話題になっている神戸をどうするかという、いろいろな文化的な立場があるだろうし、神戸の高専というのは他の高専とこういう違いがあるんだということを考えられたほうがいいと思います。それは教育委員会も含めて議論していくべきで、「将来に向けて、これまでより一歩高いステージに行こうじゃないか」と私が言ったのは、そういう意味も含めた感想だったんです。

五十幾つ全国のいろいろなところであって、非常にローカルで、例えば奈良高専なん

かは非常に内容がすぐれていると思っています。北は北海道から南は九州にもたくさんありますし、兵庫県の中で神戸として何か特色を出していかないといけないですね。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

兵庫県の中には明石に国立高専はありますが、神戸は唯一の市立の高専で、学園都市にあります。

(福田委員)

学校だけじゃなくて、こういう教育委員会会議でも、明石とは違う特色、神戸の輝きみたいなものを、そういう学生をつくるんだということを考えるような議論をすべきだと思います。中長期的に将来性をどう考えていくのか。少し聞いたところ、高専についてはみんな就職率がどうとかどこに就職をされてるんだとか、地元でやってるのかと、いろいろなことを議論していました。そういったことも踏まえて、いろいろと考えていただければいいと思います。教育委員会も一緒に議論する必要があると思います。

(森本委員)

今の話題は継続して話をしていることで、教育委員会会議で高専の将来像を考えるというのはそれでいいと思うんです。事務局の問題ではあるんですが、実務的なことで指導助言のできる部署を早急に整備されるべきでしょう。いつも教育委員会会議で話が上がって、この場で話が終わって、例えば所管課が学校に行くことはありません。ほかにも人事交流であるとか、高校生と同じ子供たちがいますので1年生から3年生までの授業の指導助言とかがあり得ると思います。4年生以降については専門性がありますので少し違ってくると思いますが。この場で議論するのは、総論の話になるので、また各論はほかのところでしていただきたいと思います。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

個別に総務課が窓口になってもらって、指導課の高校担当の先生を紹介してもらって相談したりしています。

(森本委員)

授業を見にいくとか、指導案を見てもらうとか、何か研究会をするとか、高校の先生方が見るとか、何かそういう授業研究をされたらいいと思います。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

ありがとうございます。

(森本委員)

高校がやっているマネジメントプランを参考にされるとか。ただ4年次以降のところは、高校の範疇は超えてきますので難しいかもしれません。

(雪村教育長)

高専の窓口が総務課ということと、中高の窓口が指導課ということで、比較したら距離感や専門性が全然違います。前にも少し議論で出てきてましたけれども、例えば高専からも指導主事を指導課に出してもらって、交流等もやりながら、その主事が学校現場と高専とをローテーションで変わっていくといった連絡体制、または協調体制に少しドラスティックに変えていくということが要るかもしれませんね。

(森本委員)

全てをここで議論するのは難しいです。

(大塚委員)

就職も全国企業もありますけれど、地場の企業も結構ありますでしょう。

例えば、神戸大の工学部で地場の企業に就職するという方はほとんどいないと思います。そういう意味では、地元の産業との密着度は、神戸大工学部よりはるかに高い。そのあたりも一つの特徴にはなり得るんだろうし、産学じゃないけれども、そのあたりの連携のサポートとなれば、高専の現場も教育委員会もサポートしなければいけないだろうと考えていくと、将来に向かって何か楽しい夢は描けると思うんです。

いつも申し上げていますが、高専というのは創立の時期の理念からはかなり変わってきました。いい意味で変わってきていると思っていますけれども、変わってきたとすれば、それを踏まえた上で今後の高専がどうあるべきか、全国の高専に先駆けて神戸市立高専はビジョンを打ち出したという、少し大言壮語ですけど、それぐらいの夢があっても私はいいと思うんです。

(若林工業高等専門学校副校長)

就職に関しては保護者の意見もあるでしょうけれども、どうしても名前の売れたところという意識がありますが、実際就職して、そこでうまくいかなくて、学校に相談に来る場合があります。そういうときには地元の企業を紹介するような仕組みもありますので、それを活用していきたいと思っています。

(大塚委員)

地元に着した企業との密着度というのは、申しわけないけれども神戸大とは、いい意味では私は全然違うと思っています。それをいいほうに伸ばすにはどうしたらいいかとい

うことも、私は夢だと思っています。神戸大が悪いわけじゃございません。

(福田委員)

大学とは違ういいところ、いいことがあるんだというスタンスで考えないと、どうしても中途半端になってしまうような気がします。ですから、今の就職のこともそうだろうと思いますけれども、大学とは違ったこういう技能を持った人材をつくるんだということをベースにしないといけない。今、私学も入れたら全国に700、800大学があるんですよね。そういう大学群と同じようなグレードの人材をつくるのではないんだ、こういうユニークな特色のある将来性もある人材を育成するんだと考えないと、そこを間違ってしまうと中途半端になります。研究者等を目指すんだったら大学に早く入学する道もあるだろうし、めり張りつけることが大事だと思います。今の日本のものづくり社会から見て、物すごく期待されてるように思います。ですから、ぜひ、きちっとされて進んでいかれたらいいと思います。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

ありがとうございます。

(雪村教育長)

認証評価結果についてよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

ありがとうございました。

そうしましたら、続いて、同じく高専の報告事項6、全国高等専門学校ロボットコンテスト2016近畿地区大会の開催について、お願いします。

## **報告事項6** 全国高等専門学校ロボットコンテスト2016近畿地区大会の開催について

(岸田工業高等専門学校事務室長)

高専ロボコンですけれども、ことしで29回目を迎えます。全国の高専57校、62キャンパスが参加します。全体で124チームが全国8地区で開催される地区大会に出場し、そのうち25チームにより、全国大会を開催するという内容です。

主催は全国高専連合会、それからNHK、NHKエンタープライズです。

後援は、文部科学省ほかです。

近畿地区大会の運営ですけれども、本年は神戸市立工業高等専門学校が運営を行います。近畿に7高専がありますので、7年に1回運営が回ってきます。運営協力はNHKプラネット近畿です。

日時は平成28年10月16日日曜日、開演午後1時で終演午後5時の予定です。

会場は神戸市立中央体育館で7年前もこちらで行いました。

出場校ですけれども、近畿7高専2チームずつ、合計14チームが参加します。学生3名、教員1名の、1チーム4名です。

他の地区大会は10月2日を皮切りに10月30日日曜日まで全国8地区で行われます。

全国大会に出場できるチームは、各地区大会で3チームずつで、うち、推薦が2チームということになっています。

全国大会は、平成28年11月20日日曜日、東京の国技館で行われます。

参考資料として、2014年近畿地区大会の開催状況で、高砂市で平成26年10月26日に行われた際の状況です。このときは神戸市立高専Aチームが優勝し、全国大会に進んでベスト8まで行きました。残念ながら2015年は近畿地区大会で1回戦で敗退ということになってしまいましたが、その1回戦で敗退した奈良高専が全国で優勝しています。ことしはまず近畿地区大会で、全国大会に行けるように頑張っていきたいと思います。10月16日については、教育委員の先生方にも御案内を差し上げたいと思っていますので、出席いただければと思います。

(雪村教育長)

ロボットコンテスト2016近畿地区大会について、いかがですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

地区大会は11月、全国大会は12月にNHKで放送されます。

(森本委員)

もし時間があれば見に行きます。

NHKで放映されるんですね。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

そうです。生放送ではインターネットの中継しかないので、10月に行われた内容が11月にNHKで放送されます。全国大会は12月に放送されます。

(梶木委員)

1つの学校から1チーム出るんですか。



(岸田工業高等専門学校事務室長)

近畿地区大会は1つの学校から2チームずつ出ます。

(梶木委員)

なので、14チームですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

14チームです。

(梶木委員)

高専の中では出場者を選抜しているんですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

それぞれの学校での選抜方法はあると思いますが、神戸高専の場合はロボット研究会というクラブがあり、その上級生3年生のチームと2年生のチームで出ています。その中に部員はもう少したくさんいますので、実際当日に出るのはその中から4人絞って出る形になっています。

(梶木委員)

クラブ活動で出るんですね。学科で出るのではないんですね。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

ロボット研究会のクラブ活動が中心です。

(福田委員)

テレビで放映されたら結構人気出ますよね。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

この前も説明会がありまして、ロボコンは29回目になりますけれども、非常に人気があって、NHKも力を入れて30回目に向けて頑張っていきたいのでよろしくお願ひしたいということでした。結構人気がある番組になっているようです。

(大塚委員)

実況がかなりエキサイティングですよ。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

そうですね。

(若林工業高等専門学校副校長)

ほかにもいろいろなコンテストがありますけれども、高専の中では一番大きなコンテストで、新生の面接の中でも、「ロボコンを見て」という回答をする中学生は結構います。

(梶木委員)

クラブ活動自体は人気クラブなんですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

結構「入りたい」と言って入学してくる機械工学科の学生等はいます。

(若林工業高等専門学校副校長)

入学時からロボコンがしたいからと明言して来る形です。

(雪村教育長)

部員数はかなり多いんですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

部員数は20人ぐらいです。

(森本委員)

全ての学校ではやっていないと思いますけれども、中学校の教科でこれを取り上げている先生がいます。情報の時間の中で「制御」でやっていて、そこで触発される生徒もいます。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

オープンキャンパスなどでも、全国大会に行ったときのロボットを展示したりとか、実演したりして、中学生に興味を持ってもらえるような形でしています。

(森本委員)

楽しみですね。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

神戸で開催しますので、何とかことしは全国大会に行けるように頑張ってもらいたいなと思っています。

ありがとうございます。

(雪村教育長)

ほか、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

続いて報告事項7、平成28年度全国学力・学習状況調査の実施状況報告について、お願いします。

### **報告事項7** 平成28年度全国学力・学習状況調査の実施状況報告について

(浦川教育施策推進担当課長)

報告事項7、平成28年度の全国学力・学習状況調査の実施報告です。

新聞等でも報道されましたけれども、今年度は10年目の実施となり、先週4月19日火曜日に実施されました。

調査内容については、対象は小学校6年生と中学校3年生。教科は国語A・B、算数、数学A・Bでした。A・Bとは、Aは主として知識に関する問題、Bは主として活用に関する問題です。それ以外に、児童生徒の学校生活に関する質問紙調査や学校に対して指導方法に関する取り組みについての質問紙調査がありました。

今年度、調査を実施した学校数と児童生徒数ですが、教育委員会会議で先に参加の決定をいただきまして、全校が参加しています。小学校6年生では実施全165校、中学校では83校、合計248校。実施児童生徒数は小中合わせて2万3,532人。欠席等で後日に実施している児童生徒数が269人という形です。

不測事態、トラブルはなく、調査そのものは滞りなく進みました。

19日に実施したこともあり、国からの解説資料はまだ届いておりません。4月下旬に届く予定ですので、その後また分析等させていただきたいと思えます。

なお、昨年度にも教育委員会会議でも指摘いただきましたけれども、実施後に回収した問題を活用して、模範解答の解説とか指導を行う等の予定について、各学校に確認したところ、小学校の62%、中学校の57%、全体では59%の学校が、解説書が到着した直後の4月、5月頃に振り返りを実施するとのことでした。

今後の予定ですけれども、この調査結果は国から8月下旬に帰ってくる予定です。それを受けて、9月に教育委員会会議で速報値の報告をさせていただくとともに、神戸市全体の速報値を発表します。また、9月から10月にかけて、学識経験者や小中学校の教科研究部長を含めた神戸基礎学力向上推進委員会で詳細の分析を行います。また、11月には学識

経験者をお招きして、教科別研修会を実施する予定です。具体的な問題の出題意図や狙い等を解説していただいて研修しようという趣旨です。最終的には、12月に調査報告をまとめて教育委員会会議でも報告させていただく予定にしています。

(雪村教育長)

この件について、特段よろしいですか。

(伊東委員)

どちらかという、保護者がこれについて一体どういうものかということの説明し切れないところがあると思いました。

(浦川教育施策推進担当課長)

関心のある方はごらんになられたかと思いますが、新聞にも全部問題も出ましたね。

(森本委員)

要は次が大事ななと思います。これを受けてどうだったんだろうということです。

(浦川教育施策推進担当課長)

熱が冷え切らないうちに振り返り学習等に取り組んでいただければとお願いさせていただいています。

(森本委員)

新聞の記事を見ながら問題解こうとしましたがけれども、字が小さいし難しいですね。意欲が本当に減退してしまいました。こういう問題に子供が取り組むなら、本当にじっくり集中してやらなかったら内容を理解したり、問題を解いたりできないですね。

(浦川教育施策推進担当課長)

解説書ではないですが、新聞報道等によると、小中合わせた全体の問題のうち27%ぐらいが過去9年間の調査で正答率が低かった問題だったようです。ですから、「正答率は低いけれど、これだけは身につけてほしい」という問題を主に出されたというふうに報道されています。

(梶木委員)

なかなか読解力が要りますよね。私もやってみましたけど、せっからはだめですね。

(浦川教育施策推進担当課長)

国語の問題も、物語を読むというよりは表とかそういったものを理解して、分析するという傾向になっているようです。

(雪村教育長)

この件についてよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

続いて報告事項1、平成28年第1回定例市会（2月議会）の報告について、お願いします。

### **報告事項1** 平成28年第1回定例市会（2月議会）の報告について

(豊永総務課長)

報告事項1、2月議会の報告になります。

3月23日に文教こども委員会が開催されました。議案で損害賠償の決定と和解、これは青陽須磨支援学校の件で1つ質疑がありました。

2つ目、中学校給食に関する陳情8件が出ました。それに加えて有識者会議4回目の報告です。7名の議員から質疑がありました。

3番目が、公立幼稚園の再編計画見直しを求める陳情で、2名の委員から質疑がありました。

4番目が、教科書閲覧問題にかかわる文科省からの情報提供に基づき調査した結果で、12名の該当教員がいたということを報告し、4名の委員から質疑がありました。

その他所管事項として、3つ質問が出ています。

それから、2つ目が第1回定例市会2月議会ということで、教育問題、山の日に合わせた六甲山系の活性化等、4問の質問がありました。

中身については、既にお配りしておりますので説明は省略させていただきます。

(雪村教育長)

議事録、事前に見ていただいておりますので、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

そうしましたら、主要行事予定について引き続き総務課より説明をお願いします。

## その他報告事項 主要行事予定報告

(豊永総務課長)

4月12日以降の主要行事については、記載のとおりとなっています。

今後の主要行事で、5月10日は県の都市教育長協議会、雪村教育長が出席します。5月31日は指定都市教育委員・教育長協議会が開催されます。

それから、次回の委員会会議ですが、5月24日1時15分から定例会を開催します。

それと、ここには載っていませんが、熊本県の地震に関して、簡単に報告させていただきます。4月21日、22日に先遣隊として3名が熊本市教育委員会に行きました。中溝部長と指導課国際担当の山下首席指導主事、あと行政職で教職員課の高橋係長の3名です。支援のニーズの把握ということと、阪神淡路のときの神戸の状況について説明を行いました。

今年度は神戸市が指定都市教育委員・教育長協議会の会長市ということで、指定都市への要望もいただいています。特別支援学級で今後いろいろな困難が予想されるので、その特別支援学級の担当の教員に対する何かアドバイスが欲しいというようなお話がありました。

それからもう一つが、学校が休校している間、授業ができなかったということで、教育課程についてどうしたらいいのかという相談が来ています。特別支援については、まず他都市が支援できる体制を確認して、熊本のニーズも詳細に把握しておるところです。指定都市の間でも特別支援学校を持っている都市と持っていない都市がありますので、特別支援学校を持っている都市が中心となって順番に支援に行くのかなという感じです。

教育課程については、阪神淡路の経験を中溝部長から説明して、また資料もお送りしています。

今後学校再開に伴いまして、現場の先生方の疲労がピークに達することもあるかと思っていますので、各都市で学校の運営の支援に指導主事を派遣するのにかしないのかということも、熊本のニーズも含めて今調査をしているという状況です。

(雪村教育長)

先週急遽、中溝部長初め3名行っていただきましたけれども、熊本市は少し混乱しているけれど、教育長以下幹部職員ほとんど集まっていたいただいて、次にやること等いろんな質問されて、本当によく来てくれましたと言っていたいただきました。今後の要請のメニューみたいなのも欲しいとおっしゃっていただきました。

他の指定都市も心配しています。静岡の教育長からも震災後電話があり、「それぞれの市が電話かけても熊本市さんも迷惑だろうから、当番市の神戸市さんに整理をお願いしたい」とおっしゃっていました。4月21日の指定都市教育委員・教育長協議会の総務担

当課長会議で打ち合わせてやる予定だったのですけれども、聞こえてくるところによれば福岡市も、特別支援の関係だったら派遣できるような形のようにです。

教育以外でも全国指定都市市長会はやっぱり熊本市の支援を中心に、全国知事会は熊本市以外の熊本県内の自治体の支援に入ろうという、役割分担が合意されているようです。

(梶木委員)

熊本市には学校は何校ありますか。

(豊永総務課長)

小学校が90校ちょっとと中学校が40校ちょっとで、150校ぐらいです。

(伊東委員)

ちょうど半分ぐらいですか。

(森本委員)

5月31日は来られるんですか。

(豊永総務課長)

総務担当課長会議には欠席でしたが、5月31日はもしかしたらどなたかは来られるかもしれません。

(森本委員)

来られたら、いろんな話聞かせてもらったらいいですね。

(雪村教育長)

指定都市に対するまた新たな要望、要請みたいなものもあるかもしれませんから、どなたか来られるんじゃないかなと思います。

(大塚委員)

現地への派遣はもちろんいいと思いますけれども、相談するとなったら、電話とかメールとかというのはあるんですか。

(豊永総務課長)

指定都市の窓口の課同士でのメールアドレスの交換はしています。それを通じて、電話でもやりとりはしています。調整係長のところで全てコントロールしている状況です。

(森本委員)

前に行ったことがありますけれども、お城の石垣みたいなものが崩れるぐらいだから相当なんでしょうね。

学校の建物が使えないという学校はあるんですか。

(豊永総務課長)

耐震化は済んでいたんですが、例えば体育館が使えない状況になったということがあるそうで、体育館ではなくて教室に避難者の方を入れているという学校もあるようです。

(森本委員)

仮設も建とうとしているんですか。仮設の対応まではしていないですか。

(豊永総務課長)

仮設教室まではまだですね、ほとんどの学校が避難所になっているということです。

(森本委員)

それが全部動いてからでしょうね。

(伊東委員)

「耐震化は終わっている」とニュースで言っていましたね。熊本は100%近かったと思います。

なのに体育館があんな感じで、耐震化が済んだものが壊れているんでしょうか。

(梶木委員)

天井が落ちるんじゃないですか。

(林教育次長)

天井ですね、構造物の問題だろうと思います。

(梶木委員)

この前現地視察しましたね。ああいうふうはまだ天井が残っているところがありますか。

(森本委員)

長坂中学校でしたね。

(梶木委員)



そうですね、あのタイプの体育館がだめなんじゃないですか。

(森本委員)

また情報いただいたら何か協力できることはします。我々もたくさん支援していただいたから。

(雪村教育長)

授業再開に向けて取り組んできたこととか、そういったことについては、神戸か仙台ぐらいじゃないとアドバイスできないような状況です。やはり神戸として支援していくべきだと思っていますし、市全体の動きとしては、水道とか下水とか、それからごみ収集の関係、環境局のパッカー車であるとかが行っているんですが、各局に依頼がきてチームを組んで行っているのは避難所運営です。これにも教育委員会事務局の係長が、第2陣までで2人、喫緊に第3陣の派遣が予定されています。

(豊永総務課長)

きょうとあすです。あす、文化財課から1人係長が避難所の運営に行きます。

(雪村教育長)

熊本市の場合、ほとんどの避難所が小中学校で、余りほかの公共施設はないようです。学校が避難所になっている割合が高いみたいです。

そう見れば、学校の負担も大変ですね。

主要行事、ほかの件で何か御質問等ございませんでしょうか。

その他、教育委員の皆さんから委員会会議で取り上げるべき項目について、御意見はございませんでしょうか。

また、後日でも結構ですので、何かございましたら事務局までお伝えいただきたいと思っています。

それでは、非公開案件に入ります。

傍聴者の方は、退席をお願いいたします。

(傍聴者退席)

(雪村教育長、公務のため退席)

(森本委員)

続いて、教第7号議案、神戸市いじめ問題審議会委員の委嘱の件についてお願いします。

(雪村教育長、公務より戻り着席)

## 教第7号議案 神戸市いじめ問題審議会委員の委嘱の件について

(里指導課首席指導主事)

第7号議案 神戸市いじめ問題審議会委員の委嘱の件についてお願いします。

今回、委嘱をします委員7名を挙げています。中村豊 関西学院大学の教授、添田晴雄 大阪市立大学大学院文学研究科准教授、今塩屋登喜子 兵庫県臨床心理士会理事、田邊哲雄 湊川短期大学幼児教育保育学科講師、藤本久俊 アーネスト法律事務所弁護士、正木靖子 下山・正木法律事務所弁護士、田中究、兵庫県光風病院院長の7名です。任期は平成28年5月19日から平成29年5月18日までの1年間をお願いする予定です。

平成27年度の委員のうち1名変更をしています。臨床心理士の分野で27年度には、神戸市医療センター中央市民病院の心理士、桑田美子委員をお願いしていました。桑田委員から委員会において第三者機関の役割を求められている一方、場合によっては中央市民病院で、対象となる子供に自分が対応する場面も考えられるので、公平性を保つ委員の立場として難しいものがあるため、来期の委員について辞退の申し出があり、今回兵庫県臨床心理士会に依頼して推薦を頂戴しました。

(森本委員)

谷上の光風病院の精神科医の先生といじめ問題審議会とはどんな関係があるのですか。

(里指導課首席指導主事)

いじめの重大事態のときに、精神科医の立場から意見を頂戴しています。昨年度も、調査の必要性について意見をいただいています。

(大塚委員)

人選には別に異論はないのですが、仕方ないですけれども、皆さん3期目で1人だけ1期目になりますね。計画的に順次入れかえていかないと、大幅な入れかえというのはできるだけ避けていただいたほうがいいと思います。

(里指導課首席指導主事)

今後検討させていただいて、委員の意向も踏まえて進めて行きたいと思います。

(大塚委員)

次年度ぐらいから少しずつやっけていかないと間に合わないという気がします。委員の中にはなかなかかえがたい部分があるだろうとも思いますけれどね。

(里指導課首席指導主事)

皆さん非常にお忙しい方なので、スケジュールを調整するというのも非常に難しい部分もあります。いざ重大事態が起きたときに意見を頂戴するというときにも、スケジュールの調整が非常に難しい方々かなと思いつつ進めています。

(雪村教育長)

了解いただけますでしょうか。

(6名の賛成により、可決)

(雪村教育長)

それでは、最後に、本日冒頭にあった教第6号議案、スポーツ体育課の全国体力・運動能力調査の公表について、ペンディングになっていた2行の表現についてお願いします。

**教第6号議案** 「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」への参加を定める件について

(上田スポーツ体育課長)

第6号議案の関係です。その後、指導課と調整をしまして、同じ並びの表現に変えています。学校においては保護者への説明責任を果たすため、自校の調査結果について分析し、課題等を文章表記する形で公表することと改めています。

(大塚委員)

これは学力調査の公表と一緒にですか。

(上田スポーツ体育課長)

表現はほとんど一緒です。

(雪村教育長)

この方向で学校現場との調整は可能ですか。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

可能です。それぞれ分析したことを学校だより等で公表していくということです。

(雪村教育長)

調査の主体が違っていたとはいえ、こうやって公表方針がそろっていることが一番望ま

しい姿、あるべき姿ですね。

(林教育次長)

数値は出さないということですね。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

学校ごとの平均、実数等は公表しないです。

(雪村教育長)

本当に公表を今までしている学校はなかったですか。例えば研究校で我が校の課題として全国の調査でこれが弱いというので、資料に書いているケースはなかったですか。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

スポーツ体育課には報告は来ていないので、ひょっとしたら子供たちに「去年この数値だったからそこを目指そうね」という話をしている学校はあるかもしれないですけども。

(雪村教育長)

研究発表会は丁寧な研究成果を出しているでしょう。

(赤木スポーツ体育課学校体育係長)

保護者まで数値を知らせているというのではないと思います。

(雪村教育長)

研究発表はあくまで内部ですね。

(岡田スポーツ担当局長)

内部ですね。

(雪村教育長)

では、この方向でよろしいですか。了解いただけますか。

(6名の賛成により、可決)

(雪村教育長)

はい、ありがとうございました。

そうしましたら、ここで教育委員会会議は閉会を宣言させていただきます。

**閉会 : 午後 4 時50分**